

佐賀小学校

「人間を大事に」

「自他ともに大切にすること」

ことができる

校長 宮地 由美

◆はじめに

今年度は、19名の新入生と転入生2名を迎え、児童数76名、学級数7（通常学級6、特別支援学級1）、教職員数13名でスタートしました。

佐賀中学校との連携をさらに進めるため、昨年度より、学校教育目標を中学校と同じく、「人間を大事に」自他ともに大切にすることができるとしています。小中9年間を通して（保小中15年間を通して）連携（つながり）し、さまざまな活動に取り組み、「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、課題を見つけ解決しようとするコミュニケーションの一員としての自覚を持った人材」の育成に向け取り組んでいます。連携（つながり）を意識した取組の一端を紹介します。

◆地域との連携（つながり）

昨年度、「さがっ子まもり

隊」が発足しました。保護者や地域の皆さんに、子どもたちのために力を貸していただいています。



4月には地域の方と保護者の方にご協力いただき、5・6年生は田植えを行いました。また、地域コーディネーターにもお世話になりました。また、地域コーディネーター、畑づくり、校庭の草引き、家庭科実習、読み聞かせ、生活科や総合的な学習の時間など、さまざまな場面で地域の方にご協力いただいています。



生活科や総合的な学習の時間には、「佐賀のひと・もの・こと」に触れ、課題をみつけ探究しています。その際、いろいろな場面で地域の皆さんにご協力いた

き、地域の皆さんからさまざまなことを学び、考え、自分たちの考えた課題を解決しようと取り組んでいます。昨年度、「〇〇したい」という子どもたちの思いに快くご協力いただきました。だからこそ、子どもたちは「感謝」の気持ちを強く持つようになりました。地域の皆さんには心より感謝しています。

これらの活動を通し、校外でも地域の方とのあいさつが増え、つながりがより強くなっていると感じています。これからも地域の方とふれあい、地域の方から学び、探究的な学びを通して、学びへの意欲を高めていくとともに、地域や地域の人々の役に立ちたい、貢献したいと思う子ども、ふるさとが大好きな子どもを育てていきたいと考えています。「地域とともにある学校」をめざして取り組んでいきます。

◆保育所との連携（つながり）

保育所と連携推進を図っています。4月28日（木）には、第1回保小研修会を行いました。保育所の先生方

に見守られ、スタートカリキュラムに基づいた授業を行いました。また、6月8日（水）には、



佐賀保育所と交流会を行いました。久しぶりの保育所にうれしさと気恥ずかしさが入り混じっている様子が見られました。園児との交流の中では、1年生で学んでいることを発表し、また、グループに分かれゲームも行いました。ゲームの際には園児に優しい声かけをする姿も見られました。子どもたちがめざしていた「かっこいい姿」がたくさんみられる交流会でした。

◆中学校との連携（つながり）

中学校ともさまざまな連携を推進しています。学校運営協議会を活用し

た特色ある学校づくりの推進

・生活科・総合的な学習の時間を柱とした9年間のカリキュラム作成・実施および改善

・小中連携による特色ある教育課程の編成および実践

・小中連携した授業改善による学力の定着および向上に向けた取組の推進
など、地域や保護者の方の声を学校教育に取り入れ、地域や社会のために自ら考え行動することのできる子どもたちを育てていくことを目的に取り組んでいます。1学期は、ともに授業研究を行ったり、避難訓練を行ったりしました。



これからのさまざまな連携（つながり）を大切に取組んでいきます。

この読み聞かせや炊き出し訓練も予定しています。

田ノ口小学校
地域とともに歩む学校を
めざそう

校長 東 卓志

◆はじめに

今年度、田ノ口小学校は、1名の新入生を迎え、全校児童18名でスタートしました。単式での学級は6年生のみで、1年・3年生と4年・5年生は複式学級となっています。児童数は、年々減少傾向であり、以前であればできていた活動などができなくなることもありますが、本校の良き伝統と校風を引き継ぎながら教育活動に取り組んでいます。

◆学校経営計画について

今年度の本校教育目標は、「本気・根気・元気」、副題を、「主体的に行動し、根気強く続け、元気でやさしい児童の育成」としています。また、学校では、より良い学校教育を通じて社会をつくるという目標を、学校と社会で共有す



ることがこれからの教育には求められています。そのため、ふるさと・黒潮町を愛する児童の育成と将来にわたり地域を支えていく人材を育成することが、学校の使命であるとともに地域と一緒に歩む学校でなければならぬと考えています。そのため、まずは確かな学力（知識や技能はもちろんのこと、これに加えて学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などを含むもの）を身につけることはもちろんのこと、健やかな体と豊かな心を育む学校づくりをめざすこととしています。また、地域に開かれた学校として地域と協働しながら児童の育成に力を入れたいと考えています。



◆地域資源を活かした学校経営

そのためには、地域資源としてのモノやヒトの力を借りながら地域とともに歩む学校でなければならぬと考えています。そこで、総合的な学習の時間やふるさとキャリア教育の時間を大切にしながら、黒潮町についての学習を深めています。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

今年度は、5・6年生が黒潮町で栽培されているグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。まずは、グリーンレモンに関する市場の動向や生産者の声を聞くために浮鞭のピニールハウスを訪問し、栽培に対する思いや今後の展望についての話を聞きました。

